同ニ作付ス、

〔十三朝紀聞四中御門〕享保十八年二月、西國大疫○中略先是琉球始貢甘薯于薩摩藩、長崎亦獲之於外舶、各種之、是歉也、其民賴免死者多、至是上國亦識其良菜、始傳種、

〔昆陽漫錄〕番薯

敦書民間に在りし時、番薯は甘藷と云も云ふ饑年第一の助ゆゑ、諸書を考へ集めて一卷となす、享保十九年敦書に命じて、養生所の壖地に作り試みしむ、敦書元來近年關東島々困窮して、飢人在と聞くによりて思へば、罪人を島々へ流さるゝは、罪人の天年を終しめられん爲なるに、却りて飢うれば上の御惠みに違ひ、甚だ不便なることゆゑ番藷を考へ集めしなれば、關東島々へ渡し度と申上げければ、關東島々へ渡さる、敦書身に餘り難有ことなり、其後島々にて作り習ひたるや否や、絶えて知らざりしに、寶曆六年、都人神津島へ漂泊しけるに、島人番薯を與へて食はしむ、漂泊人この島にいかゞして番藷ありと問ければ、島人答へて云、享保年中上より番藷の種を渡し下されたれども、貯あしくして種くさりしに、其比薩州人島にありて番藷を作り、貯へ樣を悉しく敎へしにより、精を出だし作り習ひ、大さ大椀に入らざるほどに出來る、神津島は至りて小く、食物すくなく、飢人ありしが、番藷を作りてより、食物とぼしからずして、飢に及ぶことなく、人も次第に多くなるにより、上の御惠の難有あまり、小祠を立てゝ番藷を祀ると云、これ今年夏間聞くところなり、誠に一人にても飢人を救ふは、廣大のことにて、有德廟の御仁政深く仰ぎ奉るべきなり、さて八丈島にては、番藷を少し作り、其外の島々は作らざるにや、いまだ聞かず、作り習はせ度きことなり、これ寶曆九年聞ところなり

〔有德院殿御實紀附錄十七〕沙糖に次ては、甘藷をもつくらしめ玉はむとて、あつく沙汰し玉へり、これは享保十七年西國蝗災ありて、農民飢饉せし時、深見新兵衞有隣に、長崎の邊凶荒のさまど